

企業を訪ねて 6

山勝電子工業株式会社(「電子機器等設計・開発・製作」:本社 神奈川県川崎市高津区末長541番地4)

■「フロンティアへの挑戦」、「ソリューション」を「確かな先進技術」で

平成22年3月11日(木)、新潟県長岡市南陽の「南部工業団地」に山勝電子工業株式会社長岡情報センターを訪ねた。同社の事業本部取締役事業本部長の金究眞平氏に、高度なエレクトロニクス業界を力強く支えておられる会社の状況をうかがった。

聞き手◆会社の設立時の思いは。

金究氏◇代表取締役社長の金究武正が、地元六日町から東京に出て、高校卒業後にプリント基盤製造会社に就職。会社勤務を続けている中で、友人達は厳しい東京の生活に見切りを付け次々と田舎へ帰って行ったが、「自分は東京で一旗上げて見せる」との思いで27歳の時(昭和48年)に独立した会社です。

◆会社設立後の歩みは。

◇創業時は、プリント基板の設計が主な業務でしたが、それだけでは難しいため、様々な受託開発を通して自社製品「レーザーダイオードパルスエージングシステム」の最新の技術により産業用機械に特化するなどして事業を拡大し、アセンブリの製造、ハードウェア、ソフトウェアの設計という一貫した事業展開を行い現在に至っております。

◆会社の企業精神・モットーについて教えてください。

◇常に挑戦し続け、時代を切り開く先進企業を目指していきたいです。人間と機械の接点を見出し、有機的な結びつきを考えてきました。それは、人間の限らないロマンをエネルギーに変え、豊かな人間社会の形成に対する発想の領域を広げ、技術力を正しく生かすことだと思います。めまぐるしく変化する激動の現代、機械の力だけでなく、人の力が大きく関わる所です。私たちは、「チャレンジ&フロンティア」をモットーに新しい時代を切り開こうとしています。

不可能と思われることでも、夢を持ち続け何度でも挑戦し、トライ&エラーを繰り返しながらいつも明日を見つめていきたいですし、そのような社員と一緒に仕事をしたいです。



金究眞平氏 山勝電子工業(株)長岡情報センターにて

◆人材育成についてはいかがでしょうか

◇当社では、出向という形で主に東京の関係企業において修行してもらう機会を設けております。新潟にいると情報が入って来るのが遅いことと刺激を持ってもらいたいからです。東京では様々な所から情報が入ってくるし、東京人は電車の中で専門書を読んで勉強しています。限られた情報の中で業務を行ってはいは、それだけで乗り遅れてしまいます。多くの場合が広い範囲の知識や柔軟性を身に付けて帰ってきます。社員の世界観が広がり、その後の社内での動きが良い面として変わってきます。

また、若い世代と年配の社員がコミュニケーションを持ちやすい社内環境づくりにも留意しています。中小企業だからこそ、一人一人と話をし解決していくことができるのだと思います。

◆本学に対する要望がありましたらお聞かせください。

◇設計業務を行う人材として真面目な学生を採用できて助かっております。大学では学生が社会に出てスムーズに繋がって行けるための基本のところを、キチンと学生に身に付けさせてほしいと思います。会社では、常に挑戦し続けるチャレンジ精神と柔軟性な考えを持った人材が必要です。

◆色々なお話の中で、本部長の社員を労るその優しい人柄が伝わってきました。お忙しいところありがとうございました。